

**人権教育月間 10/11～11/10**

後期人権教育月間の各学年の取り組みを紹介します。

1学年

- ・「心のしくみから差別を考えよう」では、人権問題・差別は、私たちひとりひとりの心が生み出してきた偏見によるもので、差別する側の問題であることを学びました。
- ・「多様な性って何だろう？」では、LGBTQについて、「レインボーフラッグに込められた願い」について学び、性の多様性について考えました。
- ・「タイムトラベラー未過」では、「1000年前」「500年前」「300年前」「100年前」の劇を観て、皮革作りの村や草場権をもつ村の人々の役割や仕事、近くの村の人々の心のうちや皮革作りの村や草場権をもつ村の人々に対する気持ちをまとめ、差別を生み、助長する心の弱さについて考えました。

**【生徒の感想】**

- 今日の授業で、「セクシュアルマイノリティ」という言葉を新しく知りました。自分の個性は人それぞれで少しでも間違った言葉を使ってしまうと相手を傷つけてしまったり、差別、差別用語みたいになってしまうことがあるんだと思いました。前の道徳の時間でもやったけど、人を見た目で判断してはいけないということは、今日のことにもつながっていると思いました。
- 性が「男」「女」など決めつけは良くないなと思いました。もし関わっている人がいろんな性を持っていたりしたら、決めつけないで、その人が悩まずカミングアウトができる場でありたいなと思いました。自分もこれから変わっていくものもあるかもしれないので、その時は信頼できる人に相談し、それを受け入れようと思いました。

2学年

- ・差別の歴史（解放令・水平社宣言・全国水平社）について、部落解放運動に取り組む人々の歴史や様々な人権問題に取り組んでいる社会の動きを学習し、差別をしない・許さず、自分にできることを考えました。

【生徒の感想】

- 1年生の時に学んだ江戸時代より前の歴史のことを思い出しながら、授業を聞きました。差別を受けていた人たちがどんな思いでいたのかということや、差別をなくすために自分にできることが何か考えるきっかけになりました。
- 「差別を作ったのは人、差別をなくすのも人」という話を聞いて、自分たちが差別の歴史を作ったわけではないけれど、差別を受けていて苦しんでいる人が今もいるのだとしたら、少しでも差別をなくすために自分たちができることを精一杯やりたいと思いました。

**【作文から一部抜粋】**

- 「差別の歴史を正しく学ぶこと」が差別をなくすために必要だと思いました。なぜ差別が生まれたのかということや、差別をなくすための政策、自分たちにできること、たくさんのことを考えて、差別をなくすための努力を一人一人がしていかなければいけないと思います。

3学年

- ・「理想の結婚」では、どんな人と結婚したいかを考えたり、理想の結婚とは何かを考えました。
- ・「一本の電話」「厳しい部落差別」では、現在も部落差別の意識があることを知り、自分が様々な立場になったらどのように考え、行動するべきかを考えた。
- ・「ドキュメンタリー結婚」では、結婚差別を受け、乗り越えた夫婦、娘の苦しみや葛藤を知り、差別をなくすために自分ができることを考えた。

【生徒の感想】

- 私は相手の人に「実は被差別部落出身なんだ」と言われたら、「へえ～、そうなんだ、でも、そんなんの関係くない？」って言うってしまうような気がします。相手が気にしないようにと思って

言った言葉だけど、実は気づかぬうちに相手の人が傷ついているんじゃないかと思ったら、難しいです。言葉一つ一つの重みを改めて感じました。

○結婚することで親との縁を切るくらい被差別部落がダメな場所？嫌な場所？と思っている美子さんの親にびっくりしました。今も結婚するときに出身地で差別される人がいたらつらいなと思いました。

○今回は学んだのは被差別部落のことだけれど、他にも障害や年齢や年収、性別のことなど、社会からの偏見は様々だと思う。自分はそのようなことは全然気にしないタイプなので、色々な考えの人がいるということを知った。どこに住んでいようが、どんな障害があろうが、結局はその人の人柄だから、人の中身を知るのは大切なことだと思った。

○3年間の人権学習を通して学んだことは、差別は絶対にしてはいけないということです。今後はその人の立場に立って、自分の言おうとしていることが本当に言ってもいいことなのかをしっかりと考え、自分の言うことに責任をもって話していきたいです。

○「差別をしてしまうのは自分が無知であるから。」この言葉を聞いてハッと気づかされました。差別をしないためにいろんなことを知っていきたく私は考えます。それらのことを知ったとき多くの人たちと一緒にその問題について考え、話し合い、互いを理解しなければならないと感じました。

生徒会役員選挙 立会演説会・投票

11月28日(火)生徒会役員選挙の立会演説会と投票が行われました。学年から選ばれた2名ずつの生徒会長候補、男女の副会長候補による立会演説会では、各候補者が堂々と来年度の五中生徒会に対する自分の抱負と決意を語りました。

どの候補者も五中のことを真剣に考え、先輩たちが残してくれたものをさらに充実させながら、自分なりに一番大切にしたい取り組み内容について明確に述べていました。

いよいよ生徒会を引き継ぐ立場に立った2年生。その真剣な姿が頼もしく感じられました。

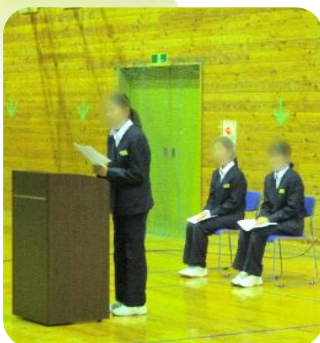
演説会後は、上田市選挙管理委員会から記載台、投票箱をお借りし、厳粛なムードの中、投票が行われました。

来年度五中生徒会を背負って立つ
生徒会役員3人が決まりました。

生徒会長 Y.Yさん(2の5)

副会長 K.Hさん(2の4)

副会長 Y.Kさん(2の1)



選挙管理員の皆さんは、これまでの教室訪問の運営や選挙の準備片付け、投開票の仕事を責任をもってやり遂げてくれたおかげで、新役員が無事決まりました。

新三役により、新生徒会の役員の間閣が始まり、12月20(水)に行われる生徒総会で発表となり、引き継ぎが行われます。

体づくり教室

上田整形外科内科のパーソナルトレーナー秋山純也先生を講師に、1, 2年生の体育の授業で体づくり教室が行われました。準備運動でのストレッチや体感トレーニングを教えてくださいました。



2学年校舎建設工事現場見学

11月22日に2年生が、校舎建設工事現場を見学しました。早い工区は基礎工事を終え、埋め戻され、コンクリートの基礎だけが見えています。見学会では、解体現場を見学した旧体育館の跡地部分の工区、新校舎の技術室、トイレの下になる部分で、配管などを通したり修理などで使用する地下ピット部分でした。仮設の足場の上から職人さんの作業の様子を観させていただきました。



今月の黒板 art



味わい

例えばおでん

大根,ちくわ,こんにゃく,がんもどき,たまご
ひとつひとつ味わえば,それぞれの味。

でも…

なべに集まるとそれぞれが「おでん」の味になる

なべは,みんなのはしでつく。

つつけばつついただけ,味がしみる。

一晩おくとまた,味がしみる。

知らず知らずしみていく。

味わいが深まっていく。

保護者懇談会

今日から保護者懇談会が始まります。「ああ、憂鬱だなあ」なんて思っている人はいませんか。懇談会、「生徒」「おうちの方」「先生」が『言葉』を、そして『心』を通わせる時間。先生とおうちの方が、生徒のみなさんの「すばらしさや可能性」をあらためて見つめなおす時間だと思います。みなさんが、改めて「自分」を見つめなおす時間だと思います。先生やおうちの方にとっても、生徒のみなさんを通して、改めて「自分」を見つめなおす時間です。素敵な心の通い合いがあるとよいですね。

お知らせ

■事務職員交代のお知らせ

療休補助で事務職員としてお努めいただいた、高杉綾子が12月5日(火)で退職となります。6日(水)からは、齊藤恵理子が復帰します。



地域の方が職員玄関に飾ってくださっています。

令和5年度 全国学力・学習状況調査 (3年生) の結果について

今年度の全国学力・学習状況調査の本校の結果と今後の指導についてお知らせします。

(1) 全体的な傾向

内容	結果
国語	ほとんど全ての項目で、全国及び長野県の平均正答率とほぼ同等でした。しかし、学習指導要領の内容に照らし合わせた区分から見ると、ほとんどの項目で下回っている結果でした。領域別では「読むこと」「書くこと」の正答率が顕著に低かったです。問題別では、『言葉の特徴や使い方に関する事項』の問題の正答率が全国に比べて高かったです。漢字や語句など言葉の知識に関しては力がついていて一方で、内容読解の力に不足が感じられます。特に、「書く」分野に関しては、正答率が低いことに加えて、「無回答」の率が高く「書く」力が課題です。
数学	多くの項目において、全国、長野県の正答率を下回っています。分布で見ると、得点上位者が大変少なく、得点力の低い生徒が多い分布になっています。特にできなかった問題は、箱ひげ図等の統計分野、自然数等の数学用語理解、図形証明問題が挙げられます。ただし、統計分野ではありますが、「累積度数」の意味理解の設問に関しては、全国を上回っています。とはいえ、関数なども含め、「数学用語の意味理解ができていない。」ということが、この正答率の低さにつながっているのではないかと考えています。また、図形証明については、「ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明できるかをみる問題」でしたが、何をいうことが結論を導くのかという「説明を構築していく力」が弱いことを示していると考えています。
英語	「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の項目で、全国及び長野県の平均正答率を下回っています。特に、「書くこと」は無回答率が高い結果でした。「話すこと」は全国平均を上回っていますが、自分の考えとその理由を話す問題は下回っている結果でした。問題別では、日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書く問題の正答率が全国及び長野県に比べて低かったです。観点別では「知識・技能」「思考・判断・表現」とも全国及び長野県に比べ低く、問題形式では、「選択式」「短答式」が低かったが、「記述式」は全国より低かったものの、長野県を上回っています。

(2) 調査結果をふまえ、これからの指導に生かすために

本校の生徒は、与えられた課題にまじめに取り組むことができます。しかし、身につけた知識や技能を、場面や目的に応じて活用したり、自ら課題を見出し、考えを深めながら追究したりする姿勢がやや弱いと感じています。

今回の調査結果を受け、国語科では、文章構成をとらえた上で構造的に内容を読み取る学習活動を積み重ねて、読解力の向上を図っていきます。また、文章の要約に合わせて、書き方のモデルを示しながら作文指導を行い、書く力の向上を図っていきます。更に、家庭学習を中心に行っている漢字などの言語事項を、授業の中でも継続的に扱うことで、より一層定着が進むようにしていきます。

数学科では、授業の中では定義をおさえることはするものの、繰り返しの確認をするようなことは、少なかったように思われます。そのことを意識しながら、図形の証明の力を上げていくためにも、定義をもとに、考えを構築したり、説明する過程を意識して授業をしたりしていく必要があると考えています。「何をヒントに考えたのか」「どうしてその考えが浮かんだのか」「参考にした考えはあったのか」「以前その考え方をしたことはなかったか」等、考えをどう進めたかを意識化することができる場面を仕組んでいきたいと思えます。また、それを表現する力は、友達に説明する機会を増やすなどして、上げて行ければと考えています。上記の場面を仕組んでいくためにも、定義理解の定着を含め、確実な計算力等、基礎的な力を上げていく面も同時に力を上げていきたいと考えています。そのためには、その重要性を伝えることで、練習量を増やそうとする意識を高めていきたいと思えます。

英語科では、ペアグループなどの対話練習やシェアリング（共同）活動を通して「話す力」「書く力」「読み取る力」をつける授業を構成しています。友達に自分の考えや表現を確認したり、表現やアイデアのヒントを得たり、わからないところを説明し合ったりすることで理解をより深めています。

表現力や英文の組み立てを理解するためには音読が有効であり、授業で学んだ基礎文法や重要単語・連語は丁寧な家庭学習を通して定着させていくことが大切です。

また、どの教科においても、基礎的な知識や技能の定着を図るドリル活動も行っています。このような取り組みを継続しながら、生徒が個々に自分の考えを持ち、ペアやグループ、全体で意見交換をし、互いに考えを共有することで課題を追究してけるような場面を多く設定していきます。「生徒が考えながら学ぶ、生徒が動きながら学ぶ」ための支援を行い、本校の課題である「思考力・判断力・表現力」を更に伸ばしていきます。